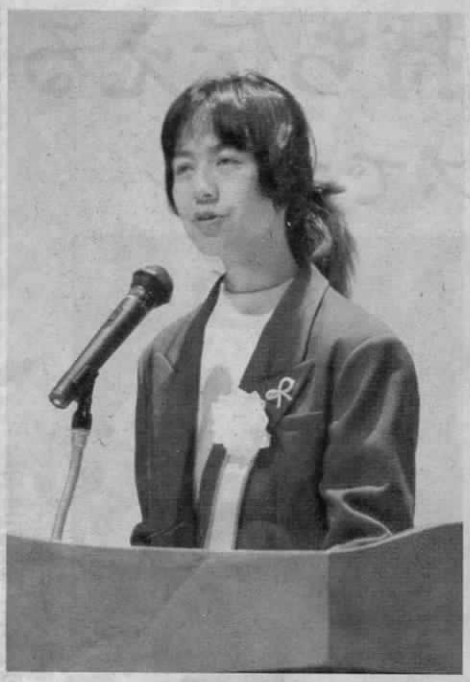
日本での経験や夢 日本語でスピーチ

長野国際文化学院 恒例の大会

諏訪市豊田の長野国際文化学院は8日、卒業式に先立ち行われる恒例のスピーチ大会を市文化センターで開いた。卒業生50人のうち予選会を通過した6人が登壇。日本語学習の成果を披露して、日本での生活や今後の目標などを発表した。審査の結果、最優秀賞に胡晨（コシン）さん（中国）、優秀賞にヴィシュミさん（スリランカ）、優良賞にイルマハムダルトフィアンスさん（インドネシア）が選ばれた。

胡晨（コシン）さん最優秀賞

胡晨さんは「繭を化して蝶になる」と題してスピーチ。「成長のために、自分に与えられた故郷を越して新しく生まれ変わること」の意味を持つ中国のことわざを示し、自分の状況と重ねて紹介した。また、日本語を覚えるまでの苦労を振り返りながら「諏訪の景色は動揺する私の心を慰めてくれた。優しい人々はいつも私を励ましてくれた」と感謝。仲間や後輩たちに「何度でも繭になり、何度でも蝶になって飛んでいこう」と呼び掛けた。



最優秀賞に選出された胡晨さん

審査員を務めた三輪晋一・市教育長は「日本語力の高さを感じた。それぞれのテーマで自分の経験を重ね、訴えたいことを表現していて素晴らしい」と総評。藤森順三学院長は「努力を積み重ね、周りの人たちと手を取り合って夢をかなえてほしい」と期待した。

（松本佳林）